

全肥商連会長 上杉 登 主催者挨拶

ただ今ご紹介に預かりました全肥商連の上杉です。

この賀詞交歓会は長年全国複合肥料工業会様と合同にて開催してきておりますが、今年は全肥商連が主催者挨拶をする順番ですので、開会に先立ちまして祝賀の挨拶をさせていただきます。

改めましておめでとうございます。今年も宜しく願い申し上げます。

先ほど行われました記念講演会では、農林水産省経営局経営政策課総括課長補佐道菅稔様に“今後の農業経営政策について－農政新時代について－”のお話しをして頂きました。貴重な情報と多くの示唆に富んだ素晴らしい内容であり、私どもに勇気を与えて頂きました。道菅様におかれましては、12日付けで内閣官房 内閣審議官に異動されました山口英彰農水省大臣官房審議官に代わり急遽ご講演をして頂くことになりましたが、改めて御礼を申し上げます。

また、本日は農林水産省からは齋藤副大臣、真鍋技術普及課長、瀬川農産安全管理課長、原生産資材対策室長、経済産業省からは井上機能性化学品室長、始め多数の方々ご臨席を頂いております。施肥技術講習会の講師をしていただいております後藤先生、小川先生、六本木先生にもご参加頂いておりますが、関連団体、全複工会員各社、全肥商連会員各社の参加を含めると210名を超える方々にお越し頂いております。主催者を代表致しまして、誠に有難く深く感謝するところでございます。来賓として、石破地方創生大臣、後藤田衆議院議員には例年声をかけさせて頂いておりますが、今年は両先生が、公務終了後駆けつけていただくことになりました。大変名誉なことであり、嬉しい限りのお年玉です。後程ご挨拶を賜ります。

昨年は肥料業界・農業界にとりましては、非常に緊張感溢れる1年間であったかと思えます。強い農業を目指す大方針のもと、10年先の農業の指針となる食料・農業・農村基本計画の発表、60年振りとなります農協法の改正、TPPの大筋合意を受けたTPP対策大綱の発表、年末には「農政新時代到来」の宣言など事業環境はまさに大きく変わろうとしております。また、私どもが襟を正さねばならぬ問題もおきました。私ども全複工、全肥商連会員は地域に根を張り生産者のニーズに細かく対応するサービスをモットーしており、1万に及ぶ肥料銘柄の安定供給と施肥指導をおこなっております。新入社員が入社した初日より先輩から多様なサービスのイロハを叩き込まれますが、製造、流通の死命線であります肥料取締法の順守も含まれます。平成23年からスタートしました施肥技

術講習会におきましても肥料取締法の講義をもっているのもその一環です。ところが、一部の肥料表示の記載が不適切であり、その結果農業者や消費者の信頼を傷つけることになったのは非常に残念であり、同じことが起きないように農水省始め監督官庁のご指導をいただきながら改善を図り、信頼回復に努めてまいります。

今年は私どもにとりましても節目の年になります。全肥商連創設 60 周年、一般社団法人化 5 周年の記念行事を昨年 9 月の「人を健康にする施肥」の出版記念大会を皮切りに行っております。今年 7 月 28 日には第 52 回全国研修会を兼ねて記念式典を経団連会館にて催す予定です。大きく変わろうとしている事業環境に“夢と勇気をもって立ち向かおう”、ラグビー精神ではないですが“All for one, One for all”を合言葉に“皆で力を合わせ、未来を勝ち取ろう”をスローガンに、準備委員会を立ち上げ、皆様が喜んで参加していただくプログラムを作成していきます。是非とも奮ってご参加ください。また、農業現場の多様なニーズに応えるため、地域、業種を超えた連携が必要と判断し、食と農の架け橋セミナーを九州、関西地域からスタートしております。更に、土壌診断に基づく施肥設計や人を健康にする施肥を促進するため、東農大発(株)全国土の会や農産物の中身で品質を評価する青果卸との協働作業をしております。それらは派手さのない地道な活動ですが、一つ一つ積上げることで、中小企業ならではの機動性を生かし、日本農業の健全な発展に微力を尽くす所存です。応援を是非ともお願い申し上げます。本日は粗酒粗食を用意致しましたので、大いに盛り上げて頂ければ幸いです。最後になりましたが、会員各社の商売繁盛とご臨席頂いております皆様のご健勝を祈念し年初めの挨拶にかえさせていただきます。おめでとうございます。